

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4271600670
法人名	有限会社 あやめの里
事業所名	グループホーム あやめの里
所在地	長崎県南松浦郡新上五島町鯛ノ浦郷3 9 7 郷4 (電 話) 0959-42-2776
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 1 月 22 日

【情報提供票より】（平成19年12 月 1 日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1 人, 常勤換算 4.62	

（2）建物概要

建物構造	木造 造り 瓦葺き平屋建て 階建ての ～ 階部分
------	-----------------------------

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	10, 500円		その他の経費(月額)	円	
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200円	昼食	300円	
	夕食	300円	おやつ	100円	
	または1日当たり		円		

（4）利用者の概要（ 3 月 1 日現在 ）

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81.2 歳	最低 58 歳	最高 93 歳		

（5）協力医療機関

協力医療機関名	上五島病院、有川病院、田坂医院、山村歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅地に和風で落ち着いた佇まいの「あやめの里」はある。ホームの中もゆったりとした時間が流れており利用者も落ち着いて生活できている。事業所では独自の倫理綱領を作成しコンプライアンスについての意識の高さがわかる。また、ケース記録など利用者の個々の管理体制が充実しており日々のケアの流れが一目瞭然である。職員の理念に向けての取り組みもよくなされており職員一人ひとりが理念を理解して「たのしく、個性的に、ゆっくり、自然に」の理念通りに利用者への対応ができているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 全体会議において職員に改善項目を公表し改善について検討した。例として、確実な申し送りをするために申し送りノートに確認印欄を設けた。また、トイレのカーテンについてはリスク軽減を優先するように決めた。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 自己評価については管理者を中心に作成している。管理者がわからないところについては職員に確認し作成した。今後は、職員全員の参加による自己評価を実施し、ホームの強みや弱みをお互いに共有し改善に取り組めるよう希望する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議は地区郷長、家族代表、民生委員、町の担当者などが参加して行われる。直近の会議では、外部評価の変更点や地域との交流促進、利用者の状態報告などが議題となっており、会議を活かした取り組みとして、地域交流のため保育園の園児を呼ぶことや日曜日ごとに教会に行くことが決定した。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族からの意見等についてはケアマネージャーが家族に会いに行った時などに聞き、全体会議で提起し改善案を出すようにしている。また、決定した改善案については家族へ報告するようにしている。例として、墓参りをさせてほしいという家族からの要望に対し自主サービスとして一緒に連れて行くようにしたり、敬老会に利用者を参加させてほしいという要望にも参加させるように改善をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 敬老会、七夕会、地域の運動会など事業所主催や地域の行事参加にて地域との交流に努めている。また、災害に備え地区郷長、消防団長、近隣の住民に協力要請をしている。

2. 調 査 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「楽しく个性的にゆっくり自然に」を理念としている。利用者との関わりを持つことを重視し表情を見逃さないよう心がけているが、地域との関連性については理念には謳われていない。	○	家庭的な環境については表現できているが、理念に地域との関連性が盛り込まれていないため、地域との関連性も理念に含めてつくりあげていくことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入社後、社員教育の一環として理念の意味などを伝え理解してもらっている。利用者と目線をあわせ、ゆっくりと笑顔ではなす事を心がけ、自分自身がゆっくりするようにして取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域開催の敬老会や教会のミサに参加したり、年に1回は事業所の庭で地域住民参加の納涼祭を開催するなどして、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の改善点においては全体会議で紹介し、各棟のミーティングにて意見交換などし、評価を活かして改善に取り組む努力がなされている。自己評価については管理者を中心に作成されている。	○	自己評価に関しても、今後は職員全員で評価に取り組むことを期待する。

グループホーム あやめの里

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では平成19年に2回、外部評価をうけての意見や提案、地域の人達との交流促進について、又利用者の状況などについて話し合い、サービス向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長がグループホーム連絡協議会長を努めているため、自治体より管理栄養士を招き検討会をしたり、地区の管理士に相談するなど連携に努める努力がなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書の中に領収書や残高と併せて、行事、誕生日の際に撮った利用者の写真を同封し、近況を報告している。職員の異動についても個々にあわせて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話を聞き意見などは日誌にメモして、ミーティングにて検討し、意見を反映させたり、家族が話しにくい事は自宅訪問をするなどして運営の参考にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員全員が顔馴染みによるケアを心がけており、職員異動の場合でもダメージを受けないよう配慮されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はその都度案内しており、地域で開催される消防署による訓練には順に参加できるようにしている。しかし、研修受講については計画的には実施されていない。	○	職員育成のための年間研修計画を作成し、職員の希望が受け入れられる仕組み作りをすることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長が新上五島グループホーム連絡協議会の会長をしているため、同業者同士の情報交換やグループからの見学などで交流をはかる取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に面会して利用者と家族にホームの説明し同意を得る。入居後利用者が不安がらないように職員がそばにつき、家族との連絡を取りながら徐々に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者は人生の先輩という気持ちで接し普段の会話や生活の中で教えてもらったり、利用者の気持ちに添って和らかな生活ができるよう心がけている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や言葉にしづらい思い、表情、動作を普段の生活より汲み取り職員全員が意見を出し合い、話し合っていく取り組みがなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族や本人に意見を聞き、又聞きづらい方はケアの中で言葉を拾うなどしている。アセスメントを含めスタッフ全員で意見やモニタリングを行い介護計画を作成している。計画作成後は利用者や家族に確認してもらい同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員とケアマネージャーとで3ヶ月ごとのモニタリングをもとに利用者やその家族の意見を取り入れて見直しを行っている。急変した場合は随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	有川病院の訪問看護センターと契約し医療連携加算をとっている。また、お墓参りなどの送迎サービスを実施し支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医と連携し適切な医療を受けられるよう支援している。また、かかりつけ医がいない場合はホームから協力医を紹介している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については早い時期から看取り指針を家族に説明している。また、利用者や家族、かかりつけ医と繰り返し話し合い方針を共有している。以前、同意書を取り医師や家族と連携し看取りを実施した事例がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保持のため居室へ入室するときは必ずノックをすること、また、トイレのカーテンを閉めるなどを心がけている。利用者の個人情報については情報提供の同意を得ている。さらに職員には入社時、誓約書を書いてもらい個人情報の取り扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には利用者本人のペースを重視している。利用者合同で行うレクリエーションについては利用者の同意を得た上で実施するようにし強要しないようにしている。		

グループホーム あやめの里

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じテーブルで同じ食事をとるようにしている。片付けなどでもできる方には一緒にしてもらっている。また、機能低下の方にはおいしく食べられるようにとりみやきざみをして提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望する場合は毎日対応している。介助においても基本的には同性が行うようにしており不快にならないよう配慮している。また、入浴できないときは清拭を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの特技や趣味などは基本情報票に記載され把握している。カーテンの開閉、洗濯物のたたみ、新聞取りなど毎日の役割もはっきりしている。また、季節ごとに貼り絵を楽しみごととしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は必ず散歩に出かけるようにしている。また、2ヶ月に一度は車を使いドライブに出かけるよう計画されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は鍵をかけず、徘徊癖のある利用者は全員で見守りを行っている。また、地域の方々には家族の同意を得た上で徘徊癖のある利用者の情報を提供している。		

グループホーム あやめの里

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難研修として消防署で職員全員を受講させるようしており現在半数が受講している。年に2回の避難訓練を実施しているが、夜間または夜間想定訓練は実施されていない。また、地域の消防団には有事の際の協力を要請している。	○	夜間及び夜間想定による避難訓練を利用者とともに実施することを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量についてはバイタルチェック表に記載している。また、食事の栄養バランスについても町職員の管理栄養士に定期的にみてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の気配りにより共用空間での光や音の調節はきちんとできている。また、居間にはこたつを置き利用者が過ごしやすいよう工夫されている。壁には季節を表す貼り絵などが飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のなじみのものが持ち込まれ個性がでるような部屋作りとなっている。また、重度化に向けた工夫として居室には足元灯を設置し、転倒時のダメージを軽くするためのカーペットも敷かれている。		

※  は、重点項目。